

## 漢字テストで一工夫

岡 篤（兵庫）

### 今年のクラス

二年生の担任をしています。昨年度の担任から、「たいへん」と聞いてはいました。勤務校では、運動会が六月の初めにあります。ここで「たいへん」を痛感しました。まず、なまぶことが出来ません。

何度教えても、覚えやすく列の種類を減らしてもだめです。忘れている子が一人から二人なら周りの子がフォローしてくれます。しかし、覚えていない子が何人もいると、周りもどうなっているのか分からなくなってしまう。

今までやったことのない整列のための表を作りました。それも、ゼッケンの色をつけ実際のならびかた合わせた表です。

私一人で対応することは早々に断念し、他の先生に整列のときだけでも入ってもらえるようお願いをしました。そのときに、この表を渡すのです。

### 列だけじゃない

列のことは象徴にすぎません。そんな状態ですから、授業中に立ち歩く子、とめどなくしゃべりつづける子、消しゴムで遊び続ける子、指示しても動かずぼんやりしている子で、授業はなかなか進みません。

### 漢字テストに手こずる

漢字の小テストは、普通に始めると、全く書かない子がいます。ぼんやりして書かない子も居れば、本当に分からない子も何人もいます。

問題文は小テストを始める前に黒板に書くことにしました。そして「漢字ドリルを見て答えを確認しなさい」と指示しました。

これでも、できない子がかなりいました。一生懸命に練習しても直後のテストでは書けない子、指示してもしゃべってやらない子もいれば、作業が遅く漢字ドリルを探し

ている間に時間が経ってしまう子もいます。

### 小テスト練習用紙

個別指導が必要だと感じました。そこで、漢字テストの点数が特に悪い子（6人中、正解が0、1）に、小テスト直前に休み時間に漢字の練習をさせることにしました。小テストの問題をそのまま書かせてチェックするので。

小テスト用紙二枚分を合わせてしかも表裏にコピーし、4回分の用紙を作り渡しました。

これは間もなく挫折しました。漢字が苦手な子は物の整理も苦手な子が多かったのです。「練習をはじめなさい」「……」「どうしたの？」「紙がありません」といったことがくり返されました。もちろん、その子たち用に多めにコピーし、置いてある場所も教えてあるのでありますが、そういった対応もなかなかスムーズにできないのです。

休み時間なので遊びにいつてしまい、練習を忘れている子もいます。

### 個別指導？

根本的な問題に気づきました。私が休み時間に指導している子は五人いたのです。手取り足取り教えなければならぬ子を小テスト直前の休み時間だけで指導することは限界がありました。

そもそも他の子が遊んでいる休み時間に漢字の個別指導するには、五人は多すぎました。かといって、授業中に他の子を待たせてこの五人に練習をさせるとすぐに教室中が騒然としてしまいます。

### 裏書き〜個別指導から一斉指導へ

一人の子が小テスト用紙の裏に練習していました。(これだ！)

私は、すぐに全員に声をかけました。

「今日から、小テストの裏に練習してもいいことにします。問題も分かっているし、漢字ドリルもあるのだから、実際に書いてみたら勉強になるね」

個別指導から一斉指導に戻したのです。

このメリットは、実際に書いているので机間巡視でチェックできるということです。練習していないこともすぐに分かります。

また、小テスト用紙は全員に配っている

ので探している間に時間が過ぎることもありません。(私のクラスでは係が配ることになっています)

さらに、全員で取り組むので、集中しやすいということもあります。やはり、他の子が遊んでいる休み時間に漢字練習に集中しろというのは酷です。

デメリットは、授業時間を使うことと、裏に答えが書いてあるので透かして見て答えを写すこともできるということです。

ただ、実態としては時間がかかっても仕方が無いところです。また、透かして見ても正しい漢字を書ければそれはそれでよいと割り切りました。

### 今日のヒント〜覚え方を覚える時間

小テストを始める直前に、間違いが多そうな漢字を指摘します。「場」は、「土(つち)、日(ニチ)、一(イチ)、ノ、刀(カタナ)、ノ」と覚えるようにしています。「室」なら「ウ、一、ム、ツチ」です。これだけでも効果はあります。

ただ、この覚え方を覚えさせるという意識も必要です。一回説明しただけでは、元々

漢字が好きで正しく覚えている子だけの記憶に残る余談になってしまいます。

字源に触れるときもあります。「麦」の下の部分を「夜」の右下の部分と間違える子が多かったときは、「足」の字源について話しました。(足、歩、正、出、止などは、同じ「足」の字源が使われています)

こどもたちはかなり載ってきて、「もっと教えて」とせがむので、ついついこちらも調子にのって長く話してしまいました。

### 総復習でもう一度

原則として、小テストの問題は、新出漢字の指導順です。これは、漢字ドリルの順番であり、宿題の範囲でもあります。ただし、問題文を多少変えて、間違いの多い漢字は、できるだけ長い間小テストに出すようにしています。かなり満点が増えてきてはいます。とはいえ、分かっている問題を裏書きしてのことです。とても、「できるよ」になっただけとは言えません。

勤務校では、三学期いっぱいをつかって漢字の総復習をします。ここでもう一度やり直します。